

平成 2 2 年度

第 2 / 3 回

(集団研修)

気候変動による洪水対策と生態系保全
のための順応的流域管理

実施要領

平成 2 2 年 8 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	2
2. 案件の背景・目的	2
3. 案件目標	3
4. 単元目標	3
5. 研修成果品	3
6. 研修員参加資格要件	4
7. 研修実施体制	4
8. 研修の評価	5
9. 研修付帯プログラム	6
10. 主な宿泊施設	6
11. その他	7

付 属 資 料

付表－1 研修員関連情報

付表－2 コースカリキュラム（案）

付表－3 日程表（案）

付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) コース名

和文：(集団) 気候変動による洪水対策と生態系保全のための順応的流域管理

英文：Group Training Program on “Adaptive Watershed Management for Flood Countermeasures by Climate Change and Conservation of Ecosystem ”

(2) 受入期間

平成 22 年 8 月 15 日（日）～10 月 16 日（土）

(3) 技術研修期間

平成 22 年 8 月 18 日（水）～10 月 15 日（金）

(4) 定員、割当国

定 員：8 名（受入数 7 名）

割 当 国：バングラデシュ(2)、ボリビア(2)、マラウイ(1)、
セネガル(2)、タジキスタン(2)（下線は受入国）

(5) 研修類型：人材育成普及型

(6) 使用言語：英語

2. 案件の背景・目的

近年の地球規模の気候変化、とくに 2007 年に発表された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第四次報告によって二酸化炭素など温室効果ガスの増大によると推定されている地球の温暖化や、それに付随する降水量の変動により、とくに開発途上国においては、これまでの想定を超えた規模のサイクロン・ハリケーンやそれに伴う豪雨などが頻発し、人命や財産への被害が増大している。一方、従来型工法でのダムや堤防などのハード対策では、流域の生態系が悪影響を受けるケースが少なくない。

このため洪水対策と生態系保全を融合させた順応的流域管理の重要性が国際的にも重視されており、途上国における技術の普及および人材の育成は気候変動への効果的な適応策の一つとなっている。

3. 案件目標

流域管理において洪水防止および生態系保全に携わっている各事業実施機関の中堅実務者および上級行政官の参加により、組織的に順応的な流域管理手法が共有される。(3年間全体で達成される目標)

4. 単元目標

本案件は3ヵ年で案件目標を達成できるように、年度ごとに定められた単元目標に沿ったカリキュラムを設定する。22年度は2年目である。

【1・2年次】

単元目標1：担当流域における現在の洪水リスクあるいは生態系破壊の現状・傾向を分析し、流域管理手法の課題と取り組んでいる適応策について説明ができる。

単元目標2：気候変動が担当流域に与える影響について説明でき、順応的流域管理手法の適応可能性について議論できる。

単元目標3：気候変動への適応策としての順応的流域管理計画のための行動計画（案）を作成する。

【3年次】上記単元目標1～3

単元目標4：担当流域における順応的管理計画手法に基づいた最終的な行動計画（案）を提出する。

5. 研修成果品

(1) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report）」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題や、それに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

(2) 本邦研修終了時

「中間報告書（Interim Report）」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標（3）にかかる行動計画（案）を作成し、コース終

盤に発表する。

(3) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた行動計画（案）を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な行動計画（案）をまとめ、帰国後3ヶ月以内にJICA帯広に提出する。JICA帯広は同報告書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

6. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

ア. 1年次・2年次：洪水防止および生態系保全に関わる各組織における現場レベルの中堅実務者

3年次：洪水防止および生態系保全に関わる各組織における上級行政官、または当該流域の管理計画の立案に直接関わる学識者

イ. 当該分野で5年以上の経験がある者

ウ. 野外実習が多いので、女性は妊娠していない者

* 洪水防止および生態系保全に関わる各組織から、毎年それぞれ1名が推薦されることが望ましい。

(2) 各案件共通資格要件

ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること

イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること

ウ. TOEFL IBT 72点（CBT 200点／PBT 533点）以上に相当する英語能力を有すること

エ. 心身ともに健康なこと

オ. 軍に属していないこと

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を社団法人北方圏センター（NRC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間等）

イ. 評価

ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) N R C

ア. 日程表の作成・調整

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) J I C E

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標（１頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による案件目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、NRC、JICE 等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務および案件概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として5時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
8 月 16 日（月）	集合ブリーフィング
17 日（火）	午前：ジェネラルオリエンテーション 午後：日本語講習
18 日（水）	午前：日本語講習

10. 主な宿泊場所

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

以上



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp

研修員関連情報

研修員情報 (英語力はリスニング/スピーキング/読解/記述能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし)

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴 (専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① HOSSAIN, Kazi Tofail ② D-1003414 ③ 48歳 ④ 男性 ⑤ バングラデシュ	① バングラデシュ水資源省 水開発庁 設計第二班 エグゼクティブ・エンジニア ② 5年7ヵ月 ③ バングラデシュ技術工科大学(水資源 工学、構造工学、環境工学、地盤工 学、輸送工学/理学士) ④ AAAA ⑤ 日本 河川とダム工学II (JICA 2000年)	① 水力施設 (堤防、灌漑・排水用水路、橋、ダム、閉塞 ゲート、川岸護岸、河川研修業務)、道路、建物の設 計業務に携わる。 ② 設計第二班は、バングラデシュのBarisal地帯におけ る水関連構造物の設計が委ねられている。	バングラデシュの海岸における複数の治水および排水 プロジェクトに従事している。私の任務は護岸、用水路、 水門などの構造物の設計およびモニタリングである。こ れらの構造物を設計するにあたり、気候の変動について 考慮しなければならない。
2	① HUSSAIN, Md. Maqbul ② D-1003415 ③ 51歳 ④ 男性 ⑤ バングラデシュ	① バングラデシュ水資源省 水開発庁 主幹企画局 エグゼクティブ・エンジ ニア ② 6年1ヵ月 ③ ラジシャヒ工科大学 (現ラジシャヒ工科 技術大学) (構造工学、地盤工学、水 資源工学、輸送工学、地下水工学/ 理学士) ④ ABAA ⑤ SABO 災害対策工学および水資源 (JICA/インドネシア 1999年)	① エグゼクティブ・エンジニアとして、洪水、干ばつ、河 川浸食、潮汐氾濫などの水害対策および灌漑事業 のため、水資源プロジェクトのマイクロレベルの設計 業務に携わる。水管理構造物の設計、水部門に関 する様々な事業の研修、および水資源プロジェクト の設計技師としてマイクロレベルに携わる。 ② 主幹企画局は、国内全てのマイクロレベルの水資源 管理部門の設計業務を担う。	バングラデシュ沿岸地域における気候変動の影響: 沿 岸の平野部のほとんどは海拔3〜5m程度であり、逆流効 果によって堤防を乗り越え、干拓地域は洪水に見舞わ れる。排水の目詰まりは、高い洪水の発生率そのものよ りも深刻な問題であることが多い。沿岸地域におけるそ のような状況と排水経路の不備により、すでに重大な問 題となっているばかりではなく、気候変動による海面 の上昇のために、問題がより増加すると危惧されてい る。堆積と三角州の形成の自然なプロセスを阻害する盛 り土による洪水への対策を強化しなければならぬ。洪 水および排水停滯の危険性は増加する一方であり、特 にバングラデシュの海岸地域に関しては、今までと違っ た方策で対処しなければならない危急の問題である。
3	① CHUISIWA, James Mika Killion ② D-1003783 ③ 44歳 ④ 男性 ⑤ マラウイ	① マラウイ災害管理部 救済・再建担当 官 ② 2年5ヶ月 ③ オーストラリア国立大学 (複合災害時 の自治体改革管理・開発管理修士) ④ AAAA ⑤ (記入無し)	① 全国レベルでの災害危機管理プログラムの実施コー ディネーション。災害に対する備え、軽減、対応、復 旧プログラムを含む。 ② 災害管理部は、国内での災害危機管理プログラムの コーディネーションと実行を担う。	洪水時の衝撃を和らげるために順応的流域管理を活用 するかをもちと習得したい。またそのことが生態系にどの ように関わっているのかも学びたい。(個人的な関心も上記 と同様である)

付表-1

4	① DIONGUE, Abdou ② D-1003568 ③ 37歳 ④ 男性 ⑤ セネガル	① 国立公園局 管理部門 企画部副部長 ② 5ヵ月 ③ セネガル国立農業高等学院 (農学校 師) ④ BBBB ⑤ (記入無し)	① 会議や編集者への報告業務に加えて以下の業務を行う。 •様々な地域での管理計画の提案 •脆弱な地域のモニタリングおよび開発プランの提案 •保護地域などの新しい区域の策定に関する提案の支援 ② •保護地域およびその周辺地域における生物多様性の保全の達成度をまとめる。 •生物多様性に重要な地域を見極め、保護地区として設立する •生物多様性保護に関する国際会議のコーディネーションと実行 •保護地域の管理と開発に関するイニシアチブの促進 •生物多様性の保全、回復、改善活動に地域住民の参加を促す。 •境界線を越えた保護地域の設立により、地域レベルでの天然資源管理の普及と開発に貢献する。 •ダーバン合意(2003)に基づき、全国土の最低12%の保護地域を確保する。 •絶滅に瀕する生物種の原産地への再定住を行う。	この研修により、気候変動による危機にも備えることが出来る。この現象が天然資源と生態系の管理にもたらすあらゆる問題に対して、最も適切な方法で対処できるであろう。様々な分野での悪影響に関する課題として、大変興味深い研修であり、気候変動がもたらす影響は、洪水、氷河(氷山)の溶解、高潮などの形で、特に生態系に対して世界中のあらゆるところで顕在化している。
5	① SALL, Djibril ② D-1003960 ③ 30歳 ④ 男性 ⑤ セネガル	① セネガル流域開発管理局(SAED) 洪水水源管理部長 ② 1年8ヶ月 ③ ブルキナファソ EIER(水力学および農村器材技師) ④ CBBB ⑤ IAV II (モロッコ・水力学 2009年)	① セネガル政府によるプロジェクトの実績評価とフロー業務・水源管理のための水門操作と農家に対する指導業務 ② •セネガル川左岸の灌漑事業 •Podor地域の農業地域の管理と水資源管理に関する指導プロジェクト対応業務	水害による被害を避けるための水管理の知識を強化したい。昨年9月の雨季には洪水によりPodor地域が打撃を受け、多くの農民が収獲を失った。
6	① SHAROFIDDINOV, Husniddin ② D-1003412 ③ 30歳 ④ 男性 ⑤ タジキスタン	① タジキスタン共和国土壌改良水資源省 揚水拠点および水源施設管理局 主任専門官 ② 5年2ヵ月 ③ タジク農業大学 ④ BBBB ⑤ 地理情報システム(タジク水力学および干拓技術研究所 2003年)・中央アジア青年研修(東京 2004年)	① 水資源配給、水力技術構造物、流域の運営とモニタリングと、気候変動時の水資源配給管理、水資源の有効活用管理 ② タジキスタン国内の土壌改良、灌漑、水資源活用と保護に関する裁定、水経済施設の建設、農村地域への水資源供給、水資源貯蓄地域の保護、河川堤防の建築と管理、消費者への継続的な水資源供給、建築物の科学的な設計と調査業務、水資源の合理的な活用実現に関する計算、以上の効果的な活用のための長期および短期的政策策定と実行および水資源のモニタリング。	自らの資格とプロ意識を向上したい。他国の参加者の経験からと、日本の気候変動による洪水対策と生態系保全のための順応的流域管理の技術からも多くを学びたい。よって、自国の同様の対応についての管理や能率的運用の改善に貢献できる。

7	① ASOEV, Foziljon ② D-1003413 ③ 27歳 ④ 男性 ⑤ タジキスタン	① タジキスタン共和国環境保護委員会 保護地域局 上級専門官 ② 8年3ヶ月 ③ タジク国立大学(生物学) ④ AAAA ⑤ 英語研修(語学研修センター 2007年)・国連大学(キルギス／地域土壌悪化アセスメント 2009年)	① プロジェクト管理、ラムサール条約保全コーディネーション、水資源保護地域業務 ② 自然保護、天然資源の合理的な活用と保全、山岳地域の生態系の保護区域の持続的開発	流域管理と洪水対策に関する近代的な技術を習得し、自国での仕事に活用し、他国の専門家らとも経験を共有する。保護地域、山岳地域の持続的開発、生物多様性の保全と賢明な活用法について興味がある。
---	--	--	---	--

カリキュラム（案）

研修科目名	講義	実習	視察	討論	担当	講義内容
事前活動						
単元目標１：気候変動が担当流域に与える影響について説明でき、順応的流域管理手法の適応可能性について議論できる。						
地球環境変動	1				北海道大学小野教授	地球環境の変動要因や怒起こりうる気候変化と研修員の国の想定される変化
ポスト京都議定書、緩和策と適応策	0.5			0.5	北海道大学小野教授	京都議定書や、その後の地球温暖化防止に向けた国際的取り組み、国内的な取り組みと各国での適応策・緩和策
ランドスケープ・エコロジーの基礎	1				北海道大学小野教授	研修コースで手法的に用いられるランドスケープ・エコロジーとその基礎的な考え方、環境管理への応用例の紹介
ダムと流域管理	1		1		北海道大学/根岸助教	多目的ダム、砂防ダムの機能と下流域へのインパクト、流域の生態系管理における農業用水路の果たす機能 河川生態系の機能と保全、ダムが下流域に及ぼす影響とそのメカニズム、洪水回帰年と計算
単元目標２：担当流域における現在の洪水リスクあるいは生態系破壊の現状・傾向を分析し、流域管理手法の課題と取組んでいる適応策について説明できる。						
住民参加と合意形成①	0.5			0.5	北海道大学小野教授	洪水対策と生物多様性保全を目的とした流域管理における住民参加の重要性
生物多様性保全における合意形成と課題解決②			1		北海道大学小野教授 アークコポーレーション室瀬	自然再生事業による生物多様性保全について（礼作別） 生物多様性保全をめぐる農民との合意形成（三日月沼）
遊水地と農業③			1		北海道大学小野教授 東北地方整備局岩手河川国道事務局	大規模遊水地建設の課題と農業開発問題 遊水地の管理運営、農業との関連（一の関）
公共事業における市民参加と生物多様性保全④			1		北海道大学教授小野 アークコポーレーション室瀬	洪水調節管理と生物多様性保全における市民参加手法 （十勝川・相生中島地区）
遊水地による治水対策⑤			1		北海道大学小野教授	遊水地による洪水対策の事例を紹介：適応策の成功事例として千歳川放水路を紹介
河川での住民活動			1		NPO法人ヌップク川をきれいにする会	環境NGOとしての住民活動の紹介
十勝川の管理計画とモニタリング	0.5	0.5			北海道開発局帯広開発建設部	日本における河川管理モニタリング(流量観察)
河川管理と生物多様性保全の試み 平野河川における生物多様性の維持機構	1	1			北海道大学根岸助教 国土交通省中部地方整備局	河川管理現場での生態系保全、河川管理上の構造物の機能と目的、 中下流域における水生生物の多様性と保全の重要性 河川生態系保全に配慮した治水・利水に関する研究紹介
治水と生物多様性保全	1		1		北海道大学中村教授、 釧路開発建設部、 環境省釧路自然環境事務所	治水と生物多様性、流域管理：治水と環境保全の両立、 湿原再生プロジェクト、統合的流域管理
G I Sによる治水計画と生物多様性保全		5			酪農学園大学金子教授	GIS の概要：基礎的知識と操作技術、空中写真判読、リモートセンシング、流域分析、野生動物GIS、GISの利用と展望
G I Sの応用と河川管理計画		1	1		北海道大学中村教授	GIS の応用：洪水管理および治水と生物多様性 洪水攪乱と河畔林に関する成立過程と種多様性： 複数の洪水確立に対する流量計算、ダムによる洪水調節と樹種の変化解析等
陸上生態系と生物多様性	0.5	0.5			帯広畜産大学柳川教授	生物多様性と小型哺乳類の保全
バングラデシュにおける ”洪水対策と灌漑システム開発”（案）	0.5			0.5	立命館大学	バングラデシュプログレスレポート”洪水対策と灌漑システム開発”事例研究
単元目標３：担当流域における順応的流域管理計画のための行動計画（案）を作成する。						
課題分析	0.5			1	北海道大学小野教授/コンサルタント	インセプションレポートにおける課題分析およびワークショップ
参加型調査手法	1	1		1	コンサルタント	「参加」の定義およびメリットデメリット 参加型調査手法の紹介と実践（ワークショップ）
キャパシティディベロップメント	0.5			0.5	JICA山本専門員	キャパシティ・ディベロップメントとJICA水プロジェクト
研修員主体による「振り返り」セッション				1.5	北海道大学小野教授	研修内容をレビューしながら、インテリムレポートへの応用を探る
インテリムレポート作成				3	北海道大学小野教授 JICA山本専門員	アクション・プラン作成指導、インテリムレポート個別指導
合計			7	7		

平成22年度 日程（案）

月日	曜日	時間	形態	研修科目	担当	宿泊
8月15日	日			来日		
8月16日	月			フリーフィング		
8月17日	火	9:30～12:00 13:30～16:30		午前：ジェネラルオリエンテーション 午後：日本語研修		
8月18日	水	9:30～12:00 13:30～16:30		午前：日本語研修 コースオリエンテーション		
8月19日	木	9:30～16:00		インセプションレポート発表会 課題分析ワークショップ	小野C/L、コンサルタント	
8月20日	金	9:30～15:45		課題分析ワークショップ	小野C/L、コンサルタント	
8月21日	土					
8月22日	日	9:30～16:45		河川の生物多様性と住民参加⑧	ヌップク川をきれいにする会会長他2名	
8月23日	月	9:30～16:00	講義	地球環境変動	小野C/L	
8月24日	火	9:30～15:45	講義	ポスト京都、適応策と緩和策	小野C/L	
8月25日	水	9:30～16:00		参加型調査手法1（実習）	コンサルタント	
8月26日	木	9:30～16:00		参加型調査手法2（実習）	コンサルタント	
8月27日	金	9:30～15:45		参加型調査手法3（発表）	コンサルタント	
8月28日	土					
8月29日	日					
8月30日	月	9:30～16:00		ランドスケープ・エコロジーの基礎	小野C/L	
8月31日	火	9:30～16:00		住民参加と合意形成①	小野C/L	
9月1日	水	9:30～16:00		生物多様性保全における合意形成と課題解決（礼作別と三日月沼）②	小野C/L、アークホレーション	
9月2日	木	9:00～16:30	視察	札内ダム・流域管理（十勝川水系）	小野C/L 北大根岸助教	
9月3日	金	9:30～16:00	講義/演習	生物多様性と河川	帯広畜産大学柳川教授	
9月4日	土					
9月5日	日			移動（帯広→名古屋）		
9月6日	月	9:00～12:30 13:30～16:30	視察/講義	河川管理と生物多様性保全の試み （長良川河口堰／木曽川大堰）（自然共生研究センター）	北海道大学大学院根岸助教 水資源機構／自然共生研究センター	名古屋センター
9月7日	火	9:00～16:30	実習/講義/視察	平野河川における生物多様性の維持機構（木曽川周辺）	北海道大学大学院根岸助教	
9月8日	水			移動（名古屋 → 一関）		一ノ関サ ンルートホテル
9月9日	木	9:30～17:00	視察/講義	遊水地と農業（一ノ関）③	小野C/L	
9月10日	金			移動（一ノ関 → 帯広）		
9月11日	土					
9月12日	日					
9月13日	月	9:30～16:00	視察	公共事業における市民参加と生物多様性保全（相生中島）④	小野C/L、アークホレーション	
9月14日	火	9:30～16:00	講義/実習	研修員主体による「振り返り」	小野C/L	
9月15日	水	9:30～16:00		アクションプラン指導	小野C/L	
9月16日	木	9:30～16:30	講義/実習	治水対策と河川モニタリング	帯広開発建設部	
9月17日	金	9:30～16:00	講義	ダムと流域管理	北海道大学大学院 根岸助教	
9月18日	土					
9月19日	日					
9月20日	月					
9月21日	火			移動（帯広→札幌） 酪農学園のGIS施設、GISの概要 GISの基礎的な使い方1・2	酪農学園大学 金子教授他2名	
9月22日	水			GISの基礎的な使い方3 GISの基礎的な使い方4（航空写真判読）	酪農学園大学 金子教授他2名	
9月23日	木					
9月24日	金	9:30～16:00		リモートセンシング（講義） リモートセンシング1（実習）	酪農学園大学 金子教授他2名	
9月25日	土	9:30～15:30		アクションプラン指導・発表準備 振り返り（13:30～15:30）	小野C/L、JICA黒田	
9月26日	日					
9月27日	月	9:30～16:00		リモートセンシング2（実習） リモートセンシング3（実習）	酪農学園大学 金子教授他2名	
9月28日	火	9:30～16:00		Watershed Analysis 1（実習） Watershed Analysis 2（実習）	酪農学園大学 金子教授他2名	
9月29日	水	9:30～16:00		Watershed Analysis 3（実習） by 根岸講師 ⇒ 中村教授へつなぐ	酪農学園大学 金子教授他2名	
9月30日	木	9:30～16:00	視察	遊水地による治水対策（千歳川放水路）⑤ 移動（札幌→帯広）	小野C/L	
10月1日	金			9月25日の振り替え休日		
10月2日	土					
10月3日	日					
10月4日	月	9:00～17:00	視察/実習	洪水管理とGISの応用	北海道大学大学院 中村教授他2名	
10月5日	火	9:00～16:00	講義/実習	生物多様性とGISの応用 移動（帯広→釧路）	北海道大学大学院 中村教授他2名	釧路ロ ヤルイン
10月6日	水	9:00～17:00	視察	治水と生物多様性（釧路川流域・釧路湿原）	北海道大学大学院 中村教授	
10月7日	木	9:00～16:00	講義 ワークショップ	流域管理（治水と環境の両立）（釧路の自然再生事業を事例として）移動（釧路→帯広）	北海道大学大学院 中村教授	
10月8日	金	10:00～16:00		バングラデシュにおける”洪水対策と灌漑システム開発”	立命館大学 大倉准教授	
10月9日	土					
10月10日	日					
10月11日	月					
10月12日	火	9:30～16:00		水資源に関するキャパシティディベロップメント	山本専門員	
10月13日	水	9:30～16:00		アクションプラン個別指導	小野C/L、山本専門員	
10月14日	木	9:30～17:00		インテリムレポート討論会（評価会含む）	小野C/L、山本専門員	
10月15日	金	9:30～13:00		インテリムレポート発表会/閉講式・閉講パーティ		
10月16日	土			帰国		

年度別受入実績表

1. 応募／選考（受入）人数

	平成21年度	平成22年度	累計
応募数	8名	8名	16名
受入数	8名	7名	15名

2. 国別受入人数

○男性 ●女性

国 名	平成21年度	平成22年度	累 計
バングラデシュ	○	○○	3名
ボリビア	●		1名
マラウイ	○●	○	3名
セネガル	○○	○○	4名
タジキスタン	○○	○○	4名
合 計	5カ国 8名	4カ国 7名	5カ国 15名